

講師名	専門分野	講義日時	授業タイトル	授業内容	予習、持参するもの	備考
池田 美奈子	編集	22日3限目 23日1限目	編集入門 一文脈のつくりかた	編集とは、世の中に散在する物事を収集し、独自の視点で分類・整理・再構築することにより文脈をつくり出し、価値を創出する一連の作業です。同じ物事を扱っても、編集者の感性や視点、編集の仕方によって、情報の価値は大きく変わります。情報の受け手と編集者のものの見方や感じ方の間に理想的なインタラクションが生じたときに、新たな情報価値が生まれます。この授業では特に「文脈のつくりかた」に焦点を当て、広義の編集の考え方や手法をワークショップを交えながら紹介します。22日と23日は同じテーマを扱いますが、素材が異なります。特に23日はスクール期間中に受講者が入手する手持ちの素材を使います。	予習は必要ありません。可能であれば、デジタルカメラまたは携帯カメラをご持参ください。	
石田 陽介	教育／都市芸術 環境政策／アートセラピー	23日1限目	ソーシャル・アートセラピー 入門	日本の社会は年間3万人もの自殺者を生み続けている。ひとつには都市がそこに暮らす人々のケアフルな共有地として存在していない状況を表している。人はセルフケアを実践する能力を後天的に獲得するが、アート体験を市民へのセルフケア能力の普及活動へと接続し、セラピューティックな機能を備えたクリエイティブタウンを構築することは可能であろうか。アートプロジェクトを通じた地域社会へのセラピーの実践方法を考える。	ありません	
泉山 朗土	映像	21日2限目	[視線+環境]	視線が環境を作り上げる。近年のクリエイティブシーンは私的な作品よりも、地域における住民参加型のプロジェクトが大きな要因を担うようになってきた。だが、その成果は他者を意識した視線がほとんど失われているように気付く。視線が環境を作るという前提でビデオアーカイブの役割と、人との関わりから生まれた新しい環境について考えてみる。	タイトルの内容の応用解釈作品を作りたい人は前日までに事前送付。 (送付先：〒812-0041 福岡市中央区大名1-14-28第一松村ビル201 トラベルフロント宛) メディア・クリエイティブジャンル不問。	上記持参がなくても受講可。
岩永 一	イベント企画	21日2限目 22日3限目 23日2限目	イベントプランニング(イベントをつくってみよう)	「商品売る」「企業イメージを向上させる」「市民認知を探る」「地域を活性化する」/イベントの狙い、目的は多種多様である。限られた予算の中でアイデアをどう具体化し、実施運営し目的を達成するか、事例に学びながら皆で計画案をつくってみる。	やってみたいイベント、検討しているイベントがあったら持ってきてください。皆で計画を作ってみましょう。	
坂口 光一	教育／感性学	22日3限目	「問い」から始めるまちづくり	日常ふと感じる「なぜ？」や「気づき」をもとにした、ユーモアと人間味あふれ、感性ゆたかな「問い」をたてることから、まちづくりとそれをとりまく仕事、学び、遊び、子育て、暮らし・・・のあり方を根源的に問い直してみたいと思います。「"問い"がまちを面白くする！」「"問い"が人生を楽しくする！」が合い言葉です。	この問いは素敵だなぁ、まいったなぁ、という問いを3つもってきて下さい。ジャンルは問いません。他作・自作も問いません。 (問いの例「全盲の方に、満点の星空を感じ取ってもらう方法を考えて下さい」「認知症の人から、(亡くなった)おかあさん、おとうさんに会いたいと言われたときに、会わせてあげる方法を考えてください」)	

坂下 和長	プロダクト	22日3限目 23日2限目	琴線スタンダード	今現在、受講生自身が日常生活で愛用しているプロダクト（ジャンル不問）を例に挙げ、なぜそれが好きなのか、それをなぜこれまで使い続けたのか、たとえば買い替えるにしてもなぜ同じものをまた買うのかなど、自分の「琴線」を辿ることから見えてくる愛着という感情が、今後どこへ向かい、どう影響していくのかを考え、自分にとってのスタンダードとは何かを見つけていく。さらにその感覚を持って街を見渡したときにどう感じ、どうまちの文脈を作っていけるかというところまで踏み込んでいきたい。	・カメラ（デジカメが良い。講義中にPCに取り込む可能性有り） ・愛用のプロダクトを持参。機能的なものでもオブジェのようなものでも何でも良い。持参が難しいもの、大切すぎて他人に触られたくないもの等はA4サイズにまとめた資料（画像のみ／文章はいりません。枚数不問）を持参のこと。 *実際に自分の「お気に入り」のプロダクトを持参して、講師並びに他の受講生の前で良さ（もちろん悪さも含んだ上での愛着）をプレゼンしてもらおう。	予習は後日追加の可能性あり
スウェイン 佳子	ダンス	21日3限目 22日1限目 23日2限目	<感じる身体>	合理的に身体を使う身体操作の基本の紹介 生きる事すべてにおける本質的なエッセンスといえる"関係性"、 "即興性"を、簡単な動きや握手ダンスから体感する 身体を感じる・触れるを体感する	動きやすい服装、タオル	
竹野 王史	ファッション	21日3限目 22日1限目 23日3限目	まちとファッション 『ファッションに個性（地域性）はあるか』	ファッションを通して地域の個性を見る。 天神（大名）というファッションに敏感なまちが今どのような状況にあるのか、ファッションと地域性に関連はあるのか、などを検証する。また、アパレル業界の裏話なんかも・・・。	カメラ	
田村 馨	都市のマーケティング	21日1限目	街を診断し治療を考える	街はどのような時に衰退し時代の犠牲者になるのだろうか。街のドクターとして、街の病巣を発見し、病名を特定し、治療法を考え、治療にあたる当事者として、一人称で、街について向かい合いましょう。	自分が住む街、働く街について診断書を書いてきてください。その際、あなたの専門的な立場（外科、内科、皮膚科、脳神経科、精神科、歯科、耳鼻科、整形外科など）を特定してください。	
田代 一倫	写真	21日2限目 22日2限目 23日3限目	写真家による「まち」の認識	写真家がまちや土地の写真を撮るということは、同時に、まちの歴史を勉強し、現在を記録、認識し、未来を思考することにほかなりません。まさに文脈を作る行為を写真家は体感しています。今回は、覚悟を持ってまちを撮影した人々と、写真を撮っているからこそ経験できることを講義します。 ・1899年頃よりパリとその周辺を記録したアジェがまちを、そして写真をどう考えたか。と講師が撮影した近年のバリ郊外の写真とその現場体験。 ・自らのリアリティを基にしたまちの撮影者と、旅をしながらその土地に入り込んでいく写真家の作品の比較。 スライド形式でできるだけ多くの写真作品を紹介します。	大名、紺屋の歴史を学んでくること。	カメラをもってきてくれれば、技術的なフォローもします。

中庭 日出海	プロダクト	21日3限目 22日2限目	『物体』	普段使っている道具や自分を取り囲む環境の中で、本来の用途とは違う使い方をされているモノを探し、なぜそうしてしまうのかを考える。用途があるモノを単なる物体として捉えることで、その形や素材が持つ可能性を探る。	本来の用途とは違う使い方をされているモノを探して、そのものを持って来てもらう。(持って来れないものは写真でも可)	
野田 恒雄	建築デザイン	21日2限目	批評講座A —聞くから問うへ—	トラベラーズプロジェクト並びに紺屋2023の概要を講師より発表する 発表後、受講生は、自らの専門分野に基づいた意見と批評を講師に投げかける	何が事前に必要かを各自考えて準備しておく	連続講座ではないので、受講生は3つの内から自分に適した講座を選べば良い。但し、適している、とはどういうことか、をしっかりと考えること なお、授業内容は予告無しに急遽変更になる場合がある。
	建築デザイン	22日1限目	批評講座B —話すと問う—	「自分が紺屋2023に対してできること」というテーマに対して、受講生は短時間の発表を求められる また、他の受講生の発表に対して、自らの専門分野に基づいた意見と批評を投げかける	何が事前に必要かを各自考えて準備しておく	
	建築デザイン	23日1限目	批評講座C —問いかける—	受講生は、他の受講生の中から一つ自分の分野以外の分野を選び、「その分野が紺屋2023に対してできること」というテーマに対して、短時間の発表を求められる また、他の受講生から自分の分野に対する発表があった場合は、即座に自らの専門分野に基づいた意見と批評を投げ返す	何が事前に必要かを各自考えて準備しておく	
野呂 英俊	グラフィック	21日1限目 22日2限目 23日1限目	まちをグラフィックで視る	紺屋町をグラフィック要素(文字・図・形など)で分割し、それぞれの要素が与える影響を想定し、まちの前後を予想する。また、一つのグラフィックが、まちにどう影響をもたらすのか検証する。	カメラ	
馬場 真理子	陶磁器デザイン・制作	23日3限目	街の中の陶磁器	紺屋2023内外で陶磁器(焼き物)を見つけてきてもらい(事前にデジカメ撮影)、撮影したものの中から一番興味があったものを、印象・用途・機能等、学生それぞれの視点で発表してもらう。それについて陶磁器の種類・成形方法等の説明を受けながらディスカッションを行い、街を構成する陶磁器について理解を深める。	陶磁器の写真(データ・JPEG基本・画像サイズ1MB程度まで) *メディアリーダー又はUSBで取り込みます。	
樋口 龍二	福祉	21日1限目	大人の道徳 —もちろん、段差はある—	「特に子ども、高齢者、障害者には、やさしく手を差し伸ばしてあげましょう」小・中学校の道徳の授業でこんな言葉を耳にしたことがあると思います。・・・が、この授業では「手を差し伸ばした」後の話・・・ではなく、「手を差し伸ばす前」の物語から、みなさんの意見を踏まえて授業を進めていきます。	みなさんの中にある「福祉」のイメージを一言で紙に書いてきてください。 授業開始時に回収し、発表させていただきます。(無記名でかまいません)	
宮本 初音	アート	21日1限目	まちとアートプロジェクト—福岡の街でおこなわれたアートプロジェクト	ミュージアム・シティ・プロジェクトの1990年から2000年まで  スライド、配布資料を基にした講義 ゲストが迎えられればトーク形式で実施	ウェブや資料など参照	コンテンポラリーアート、アートマネジメント、アートプロジェクトというキーワードに興味があるひと

	アート	22日1限目	まちとアートプロジェクトー別府の現代芸術フェスティバル2009「混浴温泉世界」を振り返る	4/11から6/14までおこなわれた同フェスを報告、解説 スライド、配布資料を基にした講義 ゲストが迎えられればトーク形式で実施	ウェブや資料など参照	
	アート	23日2限目	まちとアートプロジェクトー福岡の街の特性とアートプロジェクトの未来像	福岡アジア美術トリエンナーレの開幕を目前に スライド、配布資料を基にした講義 ゲストが迎えられればトーク形式で実施	ウェブや資料など参照	
山本 義夫	Information and Communication Technology	21日3限目 22日2限目 23日3限目	まちと情報	情報とはどういう存在なのか？「まち」における「情報」とは何か？それはどんな役割を持っているのか？ 携帯・iPhone・モバイルコンピューターなどの情報ツールが、身近に存在する現在、「情報」と「まち」の関係性に注目し、新しい「まちづくり」の形を考える。	こちらから提供する資料を熟読しておくこと	「情報技術」「IT」だからといって、技術の専門的な内容をお話するわけではありません。むしろ、主に「まちづくりのアプローチ」のお話なので、ご興味有る方はぜひご参加ください。一通りの座学をした上で、皆さんにアイデアを考えていただいて、発表していただくことを想定しています。